

1. 本書の目的

本書は、介護の技能実習生の日本語を指導する方のために作られました。本書に出てくることばは、入職後の実習受け入れ施設等で身近に接することが多いものを取り上げました。イラストも豊富に使用し、声かけに関しては、自然な表現を意識した会話例を取り入れています。

本書での学習を通して、技能実習生が、入職後の実習受け入れ施設等において必要な介護の初歩的な語彙や声かけ例を覚え、スムーズに業務が行えるようになることが本書の目的です。

2. 本書の特徴

(1) 構成：二部構成

	I 入国後講習における日本語学習で学習する語彙・声かけ表現	II 実習実施者での日本語学習で学習する語彙・声かけ表現
学習時期	入国後すぐ 管理団体が行う来日後講習で学習	入職後
学習時間	40 時間	規定はなし
指導者	日本語教師	施設・事業所の担当者
学習内容	基礎的なことば・声かけ	より専門的なことば・声かけ

(2) 語彙数：341 語（漢字は総ルビ）

声かけフレーズ：24 個（漢字は総ルビ）

(3) 訳語：英語、インドネシア語、ベトナム語

(4) 補助教材：WEB コンテンツ

3. 本書の使用にあたって

『介護の日本語』を使って日本語の指導・支援を行うにあたって、日本語指導者が把握しておいたほうがよい技能実習制度の前提、介護に関する基礎的な知識、日本語指導の心得について紹介します。

(1) 技能実習制度について

① 技能実習制度とは

技能実習制度は、人材育成を通じて我が国で開発され培われた技能、技術又は知識の開発途上国や地域等への移転を図り、その開発途上国等の経済発展を担う「人づくり」に協力することを目的としています。

開発途上国等には、経済発展・産業振興の担い手となる人材の育成において、先進国の進んだ技能・技術・知識を修得させたいとする強いニーズがあります。

この制度は、そのようなニーズを持つ諸外国の青壮年労働者を一定期間我が国の産業界に受け入れ、産業上の技能等を修得させ、帰国後彼らが当該国・地域の産業で活躍することを期待するもので、我が国の国際協力・国際貢献の重要な一翼を担っています。

② 技能実習制度の意義・目的

技能実習制度は、「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律（平成28年法律第89号）」に基づき実施されていますが、当該法律では、技能実習制度が人材育成を通じた開発途上地域等の経済発展への寄与を目的として創設された制度であることを明らかにするため、制度の目的及び制度の基本理念について、以下の通り条文で示しています。

第1条	技能実習の目的として、「技能実習の適正な実施」「技能実習生の保護」を図ることにより「人材育成を通じた開発途上地域等への技能等の移転による国際協力」を推進することと定め、併せて、以下の点を規定しています。 <ul style="list-style-type: none">・ 技能実習に関し、基本理念を定め、国等の責務を明らかにすること・ 技能実習計画の認定及び監理団体の許可の制度を設けること・ 他法令（入管法令、労働関係法令）と相まって法目的が達成されるべきこと
第3条	技能実習の基本理念として、技能実習について以下の2つを明示し、制度の適正な活用を求めています。 <ul style="list-style-type: none">・ 技能等の適正な修得、習熟又は熟達のために整備され、かつ、技能実習生が技能実習に専念できるようにその保護を図る体制が確立された環境で行わなければならないこと・ 労働力不足を補うなど、労働力の需給の調整の手段として行われてはならないこと

その他、この法律には主に以下のことが定められています。

- ・ 技能実習の内容、実施に関する基準や要件
- ・ 技能実習に関係する者とその基準や要件
- ・ 技能実習生の保護を図るための措置
- ・ 技能実習制度を運用、監督する機関（外国人技能実習機構）の設置

(2) 介護職種の技能実習における前提

① 技能実習制度における介護職種について

i) 基本的な考え方

現在、アジアを中心とする海外諸国では、認知症高齢者の増加等、介護ニーズの高度化、多様化に対応している日本の介護技術を取り入れようとする動きが出てきています。このため、日本の介護技術を他国に移転することは、国際的に意義のあるものであり、技能実習制度の趣旨（※）にも適うものであることから、平成 29 年度に、技能実習制度に「介護」が追加されました。

※ (1) ①に記載の通り、技能実習制度は、人材育成を通じて我が国で開発され培われた技能、技術又は知識の開発途上国や地域等への移転を図り、その開発途上国等の経済発展を担う「人づくり」に協力することを目的としています

ii) 介護職種の追加についての個別事項の検討

技能実習に「介護」を追加するにあたっては、介護サービスの特性に基づく様々な懸念に対応するため、厚生労働省にて、以下の点に基づき、検討が行われました。

- (ア) 介護職に対するイメージ低下を招かないようにすること
 - イ 介護という仕事について、日本語能力の乏しい外国人が担う「単純な肉体労働」という印象を持たれないようにすること
 - ロ 介護業界について、外国人を安価な労働力として使う業界であると認識されないようにすること
 - ハ 外国人を介護ではなく、単なる下働きとして使うために制度を活用しているとの疑念を持たれないこと
- (イ) 外国人について、日本人と同様に適切な処遇を確保し、日本人労働者の処遇・労働環境の改善の努力が損なわれないようにすること
 - 二 外国人でも、日本人と同等の労働を行う場合には、同等の処遇を行うことが担保されること
 - ホ 同じ職場で働く日本人従業者と円滑な連携ができる環境が整備されること
- (ウ) 介護のサービスの質を担保するとともに、利用者の不安を招かないようにすること
 - へ 利用者が安心してサービスを受けるのに必要な程度の言語能力が担保されること
 - ト 技能実習生であっても、他の日本人と比較し、サービスの水準が著しく劣ることがなく、安定性や確実性が担保されていること
 - チ 利用者との間でトラブル等が起きたり、技能実習生の労働者としての権利が侵されたりする状況を生じないこと

具体的には、上記の点について適切な対応が図られるようにするために、以下の 7 項目について、介護職種の固有要件が具体的に検討されました。

- ① 移転対象となる適切な業務内容・範囲の明確化（上記イ、ハに関連）
- ② 必要なコミュニケーション能力の確保（上記イ、ホ、へに関連）
- ③ 適切な評価システムの構築（上記イ、ハに関連）
- ④ 適切な実習実施機関の対象範囲の設定（上記ハ、チに関連）
- ⑤ 適切な実習体制の確保（上記トに関連）
- ⑥ 日本人との同等処遇の担保（上記ロ、二に関連）
- ⑦ 監理団体による監理の徹底（上記ロ、二、トに関連）

上記①～⑦については、介護が、日本語が乏しい外国人が担う「単純な肉体労働」という印象をもたれないようにしたり、安価な労働力として外国人を使用するなどの印象をもたれないようにする等の事柄が重要であるとともに、技能実習生への指導が足りず事故になった、劣悪な労働環境で技能実習生が耐え切れず逃げ出した、などということになると、介護職のイメージ低下につながってしまうことが想定され、そのようなことに決してならないように制度を担保する、との考えから検討された事柄です。

なお、技能実習制度以前に介護職種において外国人を先進的に受け入れている施設等（EPA等）では、受け入れたことによって施設ルールの見直しを図ることができたことや、一般的な介護の指導方法がより確立した、などのメリットが語られることも多くあります。

② 技能実習生が学ぶ「介護」とは

介護職種については、移転の対象となる「介護」業務が、単なる物理的な業務遂行とならないよう、一定のコミュニケーション能力の修得、人間の尊厳や介護実践の考え方、社会のしくみ・こころとからだのしくみ等の理解に裏付けられたものと位置づけることが重要であるとされています。

これらの理解のうえで行われる介護業務が「技能」であることから、技能実習生に業務手順を修得してもらうだけでなく、その根拠や考え方を含めて業務を修得してもらうことが求められています。

具体的には、以下の i) ～ v) の視点を踏まえて指導がなされます。

i) 自立支援を理解させる

利用者の身体機能の維持を図るため、利用者が「自分でできること」をしていただくことは当然ですが、何かの理由で「やらなくなっていること」を発見し、自分でできるよう支援します。できないことを補完するのではなく、別のやり方でできないか探り出すことが大切です。

利用者ができることまでやってしまうような過剰な介護をしないことを伝える必要があります。

ii) 利用者主体を理解させる

利用者の生活を支援するという観点から、介護をする際は、利用者の意向を大切にするため、つどつど利用者本人の意向を確認し、同意を得る必要があります。

利用者が自分で考えて決定し、自分でできることを行っていくことは、利用者の自尊心を高め、尊厳を保持することにつながります。

ただし、何でも利用者の言うとおりにするわけではなく、特に論理的思考や

判断力が低下している利用者に関しては、適切に自己決定できるよう支援することが大切であることを伝える必要があります。

iii) 利用者特性に応じた対応を理解させる

利用者の心身の状態等は一人ひとり異なり、同様に、提供する介護も一人ひとり異なることを伝える必要があります。そして、利用者の特性に合わせた介護を行うためには、介護職が障がいの特性や疾病・疾患の特徴等を理解したうえで観察し、アセスメントする必要があることを伝える必要があります。

iv) 介護過程、計画に基づいたチームケアであることを理解させる

我が国では、介護過程や計画に基づき、チーム全体で利用者の介護を行っています。このため、同僚である介護職員や他職種と連携しながら、利用者の状態を多角的に見ていくものであることを伝える必要があります。

v) 報告・連絡・相談の大切さを理解させる

介護現場では、利用者のケアをチームで行うため、連携プレーを心がけることが重要です。そのためには、チーム全体の円滑な業務の進行をサポートしたり、進行中の業務の「報告・連絡・相談」は欠かせないことを伝える必要があります。

このように、介護は単なる作業ではなく、利用者の自立支援を実現するための思考過程に基づく行為として整理されています。そのため、これを踏まえ、介護行為に必要な考え方、根拠等の理解を含めて、技能実習生に技能を移転することが求められています。

そのため、技能実習生に介護を指導する際には、各業務を行う際の手順や行為のみならず、その手順や行為の根拠を技能実習生に伝えていく必要があります。

③ 技能実習生が学ぶべき「日本語」とは

上記(2)②で示したように、介護職種においては、利用者とコミュニケーションをとることで利用者の状態を把握するなどの事柄が求められます。このため、一定の日本語能力が必要です。

日本語については移転する技能ではありませんが、移転する技能を身につけるためにも、日本語能力の習得は大変重要となります。

(2) 日本語指導について

①学習目標

「日本語を学習する」と言っても、学習者がどのような状況で日本語を使用するのかによって、学ぶ内容は異なってきます。介護の技能実習生の場合は、入職後の実習受け入れ施設等においてスムーズに業務が行えるようになるための日本語力を身につけることが目標となります。

入国後講習では、日本語教師とともに「基礎的なことば・声かけ」を学習するため、学習目標が定めやすいでしょう。しかし、入職後は施設・事業所の担当者とともに介護の現場において「専門的なことば・声かけ」を学んでいきます。学習内容も実質的な業務に直結するものに広がるため、目標が定めにくくなると思われます。入職後は、「介護技能実習における日本語運用力チェックシート（以下、チェックシート）」を活用し、技能実習生と支援者で日本語運用力を確認しながら学習を進めていくとよいでしょう。「チェックシート」は、月に1回は技能実習生が各項目の自己評価を行い、今の自分に必要な日本語学習について記述するように支援していきましょう。記入する際は、記入日と何回目のチェックになるかも記載するようにし、時系列での成長を実感できるようにします。技能実習生が記入した「チェックシート」は回収し、支援者がコメントを記入して返却します。返却する際は、短時間でもよいのでミーティングの時間を設け、技能実習生が日本語面、技術面で困難に感じている点を共有し、何らかのアドバイスを伝えるようにするとよいでしょう。例えば、「チェックシート」の4で、「できない」にチェックが入った場合、分からないことをどう伝えればよいか分からないから「できない」のか、指示の中の語彙が分からないから「できない」のか、指示の内容は分かったが、どう行動すればよいのか分からないから「できない」のか等、「できない」原因を具体的に把握すると、支援者も適切なサポートができるようになります。「チェックシート」は返却前にコピーを取り、支援者の手元にも残しておく、技能実習生の成長の記録を追うことができます。技能実習生にも返却された「チェックシート」はきちんと保管し、自分の日本語学習の状況を振り返る資料とするように説明しておきましょう。

②日本語指導のポイント

技能実習生に日本語を指導するときには、日本語教師・支援者の日本語が技能実習生にとって分かりやすいものでなければなりません。例えば、下の指導者の発話例は、日本語が外国語である技能実習生からすると、理解しにくい発話になっています。

<発話例>

えーと、この健側って言葉はね、あの一、麻痺とか障害が出ていない側のことね。反対の意味は患側。麻痺があったり体が自由に動かせないほうが患側。分かった？頻繁に使うから、ちゃんとメモしてしっかり覚えてね。

上記の発話例のように、発話が長くなったり、文の切れ目があいまいになると、技能実習生には意味が通じにくくなります。分かりやすく話すためのポイントは、以下の通りです。

ア. 「です・ます体」の短い文で話す

技能実習生に限らず、日本語学習者は、一般的に文末を「～です」「～ます」で表現する「です・ます体」で日本語を学習します。そのため、上述のくだけた印象を与える発話や「昼ご飯、何食べる?」「分かった?」のような表現では理解が難しくなります。「昼ご飯は何を食べますか」「分かりましたか」のように「です・ます体」を使って話すことがポイントです。

また、技能実習生は、「えーと」「あの一」といった特に意味のない言葉であっても、何か意味があるのかと考えてしまい、理解ができなくなることがあります。そのため、意味のない、不必要な言葉は使わないようにします。

イ. ゆっくり、はっきり、標準語で話す

日本人が普段話しているスピードで話すと、技能実習生は聞き取りができません。また、技能実習生は標準的な日本語で日本語を学習してきていますので、方言は理解できません。ゆっくりと、はっきりした標準的な発音と表現で話すようにします。

ウ. 板書

技能実習生に分かりやすいように、漢字を板書するときは、ルビをふります。

<板書例> ^{くるま} 車 ^{のむら} いすは野村さんが ^{じぶん} 自分で ^{うご} 動かしました。

それでも、漢字を見るとストレスを感じるようなら、ひらがなで書きます。ひらがなで書く場合は、文節がよくわかるように分かち書きで書きます。

<ひらがなの板書例>

くるまいすはのむらさんがじぶんでうごかしました。

⇒文節が分からず、読みにくいので、分かち書きにします

<分かち書きの板書例>

くるまいすは のむらさんが じぶんで うごかしました。

⇒文節がはっきりして、読みやすくなります

エ. 漢字の熟語は避け、和語を使う

技能実習生は、漢字の熟語や改まった表現はあまり知りません。「集合時間 10 時 時間厳守」は、「10 時までに集まってください。必ず時間を守ってください」のように分かりやすい言い方に言い換えるようにします。ただし、介護現場で必要な専門用語は、意味を分かりやすく説明し、そのまま覚えるように指導します。

オ. 理解したかどうかを確認しながら話す

技能実習生に「分かりましたか」と聞くと、分かっていなくても「分かりました」と答えることがあります。「分かりましたか」という確認では、技能実習生の理解を確認することはできないと思ったほうがよいでしょう。理解しているかどうかは、説明した内容を技能実習生に自分の言葉で言ってもらったり、指示した内容を実際にやってもらったりするなどして確認するようにします。そして、もし聞き取りができなかったり、理解できなかったりした場合は、「もう一度言ってください」「分かりませんでした」と言えるように指導することも大切です。

以上の 4 つのポイントを踏まえたうえで、前述の発話例を技能実習生にとって分かりやすい表現にすると、以下のようになります。

(日本語教師・支援者の発話を T、技能実習生の発話を S とする)

T: 健側は、麻痺や障害が出ていない側のことです。反対の意味は患側です。
患側は麻痺があったり体が自由に動かせない側のことです。
では、この山田さんは、右腕が麻痺していて動かすことができません。
山田さんの健側はどちらですか。
S: 左です。
T: そうですね。では、患側はどちらですか。
S: 右です。
T: そうですね。この言葉はよく使います。ノートに書いて覚えてください。

このように「です・ます体」の短い文で、具体的な質問を入れて確認しながら話すと、技能実習生にとって理解しやすい発話になり、学習も促進されます。

4. 学習の進め方

本書の I は監理団体が行う「入国後講習における日本語学習で学習する語彙・声かけ表現」であり、指導は日本語教師が担当します。学習時間数も 40 時間と定められているため、1 章あたり 5 時間の時間配分を目安に学習を進めていくとよいでしょう。

本書の II は実習実施者での日本語学習で使用します。指導者は、施設・事業所の担当者です。学習時間の規定は特にありませんが、I 同様、1 章あたり 5 時間程度の時間配分を目

安に学習を進めていくとよいでしょう。

学習の進め方の例は、「6. 学習の進め方の例」で示します。

5. 各カテゴリーの目標

各カテゴリーの単元名と目標を一覧にまとめました。

I. 施設・事業所で必要な基礎的なことば、声かけを習得する		
	単元名	目標
	第1章 からだのしくみの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の各部位の名称を覚える ・洗顔時の声かけができる
	第2章 移動の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッド周りの物の名称を覚える ・移動の介護で使用する福祉用具の名称を覚える ・移動の介護の声かけができる
	第3章 食事の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の介護に必要な用具の名称を覚える ・食事の介護の声かけができる
	第4章 排泄の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄の介護に必要な用具の名称を覚える ・排泄の介護の声かけができる
	第5章 衣服の着脱の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服に関する語彙を覚える ・衣服の着脱の介護の声かけができる
	第6章 入浴・からだの清潔の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴や身だしなみに関係する語彙を覚える ・入浴の介護の声かけができる
	第7章 日常のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・施設における日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を覚える ・時間帯別に必要な声かけができる
	第8章 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境に必要な語彙や技能実習生が職場で関わる関係者の名称を覚える ・生活環境整備に関する声かけができる

II. 施設・事業所で必要な専門的なことば、声かけを習得する		
	単元名	目標
	第1章 からだのしくみの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・からだの中の語彙と体調確認などで使用する語彙を覚える ・体温測定時の声かけができる

第2章 移動の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・体位変換に必要な語彙を覚える ・体位変換の声かけができる
第3章 食事の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の介護に必要な用具の名前と食事の名称例を覚える ・食事の介護に必要な声かけができる
第4章 排泄の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄の介護に必要な発展的な語彙を覚える ・排泄の介護に必要な声かけができる
第5章 衣服の着脱の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱の介護に必要な発展的な語彙を覚える ・衣服の着脱の介護に必要な声かけができる
第6章 入浴・からだの清潔の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴や身だしなみに関係する発展的な語彙を覚える ・顔の清拭の介護の声かけができる
第7章 日常のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・職場での事務連絡に必要な語彙を覚える ・寝る前の介護の声かけができる ・職場での報告、連絡、相談ができる
第8章 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションに関する語彙、シフトに関する語彙を覚え、会話に活かすことができる

6. 学習の進め方の例

(I-第2章を例に取り上げます。例で取り上げた学習箇所は、入国後講習で扱う範囲になりますが、入職後の日本語学習も本例を参考に進めていただくことを推奨します。)

(1) 予習前提

本書は予習前提で学習を進めるため、技能実習生には学習章を下記の要領で予習してくるように指示してください。

【予習の仕方】

- ①各章のカテゴリー（例：第2章-1 ベッド周り）を見て、その場面ではどのような語彙が使われるかを母語で（可能であれば日本語も）考えます。
- ②テキストにある語彙を確認し、イラストと対訳で意味を確認します。
- ③WEB コンテンツを活用し、音声を確認します。WEB コンテンツの活用の仕方は下記の通りです。
 - ア. まず、イラストと対訳を見ながら音声を聞き、正しい発音を確認する。

イ. 次に、正しく言えるように声に出して読む。

ウ. 最後に、音声を聞きながら書き取りを行い、音と表記が一致していることを確認する。

④語彙の学習が終わったら、WEB コンテンツの【声かけ】の音声を聞き、学習した語彙の使用例を確認します。

(2) 指導例

I - 第2章を60分×5回で指導する際の目安は下記の通りです。

目標	・ベッド周りの物の名称を覚える	
	・移動の介護で使用する福祉用具の名称を覚える	
指導予定	1回目	1. ベッド周りの語彙の確認と運用力強化
	2回目	2. 移動の介護で使用する福祉用具の名称の確認と運用力強化
	3回目	3. 移動の介護の声かけ 導入
	4回目	4. 移動の介護の声かけ 発展練習
	5回目	5. まとめ（語彙、表現の定着確認、テスト実施）

I - 第2章の各回の教案例を次ページから紹介します。

I - 第2章 1回目 教案例

目標：ベッド周りの語彙を覚え、運用力を高める

指導語彙：ベッド、枕、オーバーテーブル、毛布、シーツ、床頭台、サイドレール（ベッド柵）、布団、マットレス、介助バー、リモコン、キャスター、ストッパー

※表内の T は日本語教師の発話例、S は技能実習生の発話例を示す

時間	項目	指導者の活動	技能実習生の活動	留意点
10分	語彙確認	<p>予習してきた語彙が正しく定着しているかを小テストで確認する。</p> <p>テストでは、語彙の意味だけでなく発音も正しく認識しているかを確認する。</p>	小テストを受ける	(参考資料) 語彙確認テスト
5分	導入	<p>介護用のベッドの作りを確認し、ベッド周りの介護で必要な状況をイメージする</p> <p>会話例</p> <p>T: 皆さんがいつも使っているベッドと、介護用のベッドは、どんなところが違いますか。</p> <p>S: 介護用のベッドは、サイドレールがあります。等</p> <p>T: 寝ている利用者さんにベッドから起き上がりたってもらうとき、どんなことに注意しますか。</p> <p>T: ずっとベッドで寝ていると、体が痛くなります。利用者さんにどんなアドバイスをしますか。</p>	<p>指導者の問いに答えながら、介護用のベッドの作りや介護状況をイメージする。</p>	Sの理解度に合わせて、Tの質問の内容を変える

35分	語彙指導	<p>介護現場でよく使われる話題や場面を取り入れながら、語彙の使用例を指導し、運用力を高める</p> <p>T：見てください。(ベッドの絵を指し示す) これは何ですか。</p> <p>S：ベッドです。</p> <p>T：そうですね。介護用のベッドは高さを変えられることができます。</p> <p>(板書) ベッドの高さを変える</p> <p>T：どんなときにベッドの高さを変えるといいですか。</p> <p>S：利用者さんがベッドから降りる時です。</p> <p>T：それから、ベッドの頭のほうの角度を変えると、体を起こしやすくなります。</p> <p>(板書) 角度を変える 体を起こす</p> <p>ベッドの膝の部分も角度を変えることができます。</p> <p>高さや角度を変えるときは、これ(リモコンの絵を指し示す)を使います。これは何ですか。</p> <p>S：リモコンです。</p> <p>T：そうですね。リモコンを使って、ベッドの高さや角度を変えます。「リモコンで操作します」と言います。</p>	<p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p>	<p>『介護の日本語』の絵を見ながら学習を進める</p> <p>語彙の運用力を高めるために、学習する語彙と一緒に使う動詞と助詞などをセットにして指導する</p> <p>写真や絵を見せながら説明して、Sの理解を深める</p>
-----	------	--	---	--

		<p>(板書) リモコンで操作する</p> <p>T: リモコンで利用者さんが使いやすい高さや角度にします。「高さを調整します」「角度を調整します」といいます。</p> <p>(板書) ベッドの高さ／角度を調整する リモコンでベッドの高さ／角度を調整する</p> <p>T: どんなどき、リモコンでベッドの高さを調整しますか。 「～とき、リモコンでベッドの高さを調整します」で文を作ってください。</p> <p>S: 利用者さんがベッドから降りるとき、リモコンでベッドの高さを調整します。 など</p> <p>T: では、どんなどき、リモコンでベッドの角度を調整しますか。「～とき、リモコンでベッドの角度を調整します」で文を作ってください。</p> <p>S: 利用者さんが食事をするとき、リモコンでベッドの角度を調整します。 など</p> <p>T: はい、いいですね。 では、次です。介護用のベッドには、これ（介助バーの絵を指し示す）がついています。これは、何ですか。</p> <p>S: 介助バーです。</p>	<p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>学習した語彙を使って、表現練習をする</p>	<p>学習した語彙を正しく理解しているか、文作成を通して確認する</p>
--	--	--	---	--------------------------------------

		<p>T : そうですね。介助バーは何のために使っていますか。</p> <p>S : 利用者さんがベッドから起き上がったたり、車椅子に移ったりするときに使います。</p> <p>T : そうですね。ベッドから起き上がったたり、車椅子に移ったりするとき、利用者さんが介助バーにつかまりますね。(板書) 介助バーにつかまる</p> <p>介助バーにつかまっていただけですか</p> <p>T : 次は、これです。(枕の絵を指し示す) これは何ですか。</p> <p>S : 枕です。</p> <p>T : そうですね。 枕には、枕カバーをします。「枕カバーをかける」といいます。</p> <p>(板書) 枕カバーをかける</p> <p>T : 枕カバーはいつもきれいにしましょう。 枕カバーを取り替えます。</p> <p>(板書) 枕カバーを取り替える 枕カバーを取り替えますね</p> <p>T : 次は、これです。(毛布と布団の絵を指し示す) これは何ですか。</p>	<p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む。</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p>	<p>声かけで使えそうな語彙の場合は、声かけ例も示すとよい</p>
--	--	--	---	-----------------------------------

		<p>S：毛布と布団です。</p> <p>T：そうですね。毛布は、寝る時に体の上へのせます。「毛布をかける」といいます (板書) 毛布をかける 毛布をかけますね</p> <p>布団は、体の上にかける布団を掛け布団といいます。そして、体の下にする布団を敷布団といいます。</p> (板書) 掛け布団、敷布団 布団をかける、布団を敷く 布団をかけますね <p>毛布も布団も、使った後は、たたみます。</p> (板書) 布団／毛布をたたむ 布団／毛布をたたみますね <p>ベッドを使うときは、敷布団は使いません。マットレスを使います。マットレスや敷布団には、シーツをかけます。</p> (板書) シーツをかける <p>シーツもいつもきれいにしましょう。 シーツを取り替えます。</p> (板書) シーツを取り替える	<p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p>	
--	--	--	---	--

		<p>シーツを取り替えますね</p> <p>T: では、これ (床頭台の絵を指し示す) は何ですか。 S: 床頭台です。 T: そうですね。床頭台には、引き出しや戸棚があります。 (板書) 引き出し、戸棚 引き出しを開ける／閉める 戸棚を開ける／閉める</p> <p>T: 床頭台の中に、どんなものが入っていると思いますか。 S: 利用者さんがよく使うものです。 T: そうですね。では、床頭台のこれ (床頭台のタオル掛けを指し示す) は何ですか。何に使いますか。 S: タオルを置きます T: そうですね。「タオルをかける」といいます。そして、 この名前はタオル掛けです。 (板書) タオル掛け／タオルをかける</p> <p>T: では、これ (オーバーテーブルの絵を指し示す) は何ですか。 S: オーバーテーブルです。 T: そうですね。どんなときに使いますか。 S: 食事をするときに使います。</p>	<p>一緒に声に出して読む</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p>	
--	--	---	---	--

		<p>T: そうですね。食事をするときは、オーバーテーブルをきれいにしましょう。「オーバーテーブルを拭きます」。(板書) オーバーテーブルをふく</p> <p>T: オーバーテーブルは、キャスターがあります。キャスターがついていきますから、動かすことができます。でも、食事をするときに、動くときと危ないです。動かないようにストップパーをかけましょう。</p> <p>(板書) ストップパーをかける</p> <p>ストップパーは、ロックともいいます。</p> <p>(板書) ロックをかける</p> <p>動かすときは、ストップパーやロックを外します。</p> <p>(板書) ストップパーを外す、ロックを外す</p> <p>T: では、勉強した言葉を使って、文を作ってみましょう。</p> <p>_____ように、ストップパーをかけます</p> <p>S: 床頭台/オーバーテーブルが動かないように、利用者さんがががをしないように、ストップパーをかけます。 など</p> <p>T: いいですね。ベッドの周りがある言葉を勉強しました。しっかりと覚えてください。</p>	<p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>学習した語彙を使って、表現練習をする</p>	<p>学習した語彙を正しく理解しているか、文作成を通して確認する</p>
--	--	--	---	--------------------------------------

10分	まとめ	<p>学習した語彙が正しく定着しているかを確認テストでチェックする。テストでは、語彙の意味だけでなく発音も正しく認識しているかを確認する。</p> <p>確認テストはその場でチェックし、実習生にフィードバックする。</p>	確認テストを受ける	(参考) 確認テスト
-----	-----	---	-----------	---------------

I - 第2章 2回目 教案例

目標：移動の介護で使用する福祉用具の名称を覚え、運用力を強化する

指導語彙：車椅子、杖、歩行器、ストレッチャ、移動用リフト、スライディングボード、スライディングシート

※表内の T は日本語教師の発話例、S は技能実習生の発話例を示す

時間	項目	指導者の活動	技能実習生の活動	留意点
10分	語彙確認	<p>予習してきた語彙が正しく定着しているかを小テストで確認する。</p> <p>テストでは、語彙の意味だけでなく発音も正しく認識しているかを確認する。</p>	小テストを受ける	(参考資料) 語彙確認テスト
5分	導入	<p>移動の介護で使用する福祉用具にはどのようなものがあるか、という場面で使うかをイメージする</p> <p>質問例</p> <p>T：皆さんは車椅子を使ったことがありますか。 (使用経験がある S がいたら、いつ、どうして使ったかを尋ねる)</p> <p>T：車椅子は、どんな人が使いますか。</p> <p>T：車椅子を使っている利用者さんの介護をするとき、どんなことに気をつけなければなりませんか。</p>	<p>指導者の問いに答えながら、移動の介護で使用する福祉用具の使用状況をイメージする</p>	S の理解度に合わせて、T の質問の内容を変える
35分	語彙指導	介護現場でよく使われる話題や場面を取り入れながら、語彙の使用例を指導し、運用力を高める		<p>いつも利用者の立場に立ち、安全に配慮することを確認する</p> <p>『介護の日本語』の絵を見ながら学習を進める</p>

	<p>T: 見てください。(車椅子の絵を指し示す) これは何ですか。</p> <p>S: 車椅子です。</p> <p>T: そうですね。車椅子は、自分で歩くことができない人や、歩くことが難しい人が使います。車椅子で移動するときは、利用者の方に、椅子にしっかりと座ってもらいます。椅子やベッド、ソファアーに座ることを、「腰かける」といいます。そして、しっかりと座ることを「深く腰掛ける」といいます。(板書) 腰掛ける、車椅子に腰掛ける 車椅子に深く腰掛ける</p> <p>そして、車椅子を動かすときは、このグリップ (絵を指し示す) を握って、やさしく押します。 (板書) グリップを握る、車椅子を押す</p> <p>車椅子を止めるときは、ブレーキを使います。ブレーキを使うことを「ブレーキをかける」と言います。 (板書) ブレーキをかける</p> <p>車椅子を動かすときや止めるときは、必ず利用者さんに声をかけるようにしましょう。声のかけ方を少し練習します。 「_____ いただけますか」の文でいつってください。 車椅子に移動します/車椅子に腰かけます</p>	<p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>「～ていただけますか」の形にして適切な声の調子で言えるように</p>	<p>写真や絵を見せながら説明して、S の理解を深める</p> <p>語彙の運用力を高めるために、学習する語彙と一緒に使う動詞と助詞、表現などをセットにして指導する</p>
--	--	--	--

		<p>もう少し深く腰掛けます／ブレーキをかけます</p> <p>T: では、これ（杖の絵を指し示す）は何ですか。 S: 杖です。 T: そうですね。杖を使って歩くことを、杖をつくと言います。 （板書）杖をつく</p> <p>T: では、これ（歩行器の絵を指し示す）は何ですか。 S: 歩行器です。 T: そうですね。歩行器は、どんな人が使いますか。 S: 歩くのが難しい人です。 T: そうですね。足や腰が痛かったり、力が弱くなっている人が使います。体を支えながら歩くのに便利です。 （板書）体を支える 歩行器／杖で体を支える</p> <p>T: では、これ（ストレッチャーの絵を指し示す）は何ですか。 S: ストレッチャーです。 T: そうですね。ストレッチャーはどんなときに使いますか。 S: 怪我で動けない人や、具合が悪くて動けない人を運ぶ時に使います。</p>	<p>練習する</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p> <p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p>	
--	--	--	---	--

	<p>T: そうですね。ストレッチャーは、救急車や病院にもありますね。</p> <p>T: では、これ（移動用リフトの絵を指し示す）は何ですか。</p> <p>S: 移動用リフトです。</p> <p>T: そうですね。移動用リフトはどんなときに使いますか。</p> <p>S: ベッドから車椅子に移動してもらう時に使います。</p> <p>T: そうですね。自分で座っていることが難しい人をベッドから車椅子、トイレ、浴槽などに移動してもらう時に使います。</p> <p>T: では、これ（スライディングボードの絵を指し示す）は何ですか。</p> <p>S: スライディングボードです。</p> <p>T: そうですね。スライディングボードはどんなときに使いますか。</p> <p>S: ベッドから車椅子に移動するときに使います。</p> <p>T: そうですね。スライディングボードを使うと、座ったままで、ベッドから車椅子、車椅子からベッドに移動することができます。</p> <p>お尻の下にスライディングボードを置いて使います。お尻の下にスライディングボードを敷くといいですよ。</p> <p>(板書) スライディングボードを敷く</p>	
	<p>板書をノートに書き取り、教師と一緒に声に出して読む</p>	

		<p>T: では、これ（スライディングシート）の絵を指し示す）は何ですか。</p> <p>S: スライディングシートです。</p> <p>T: そうですね。スライディングシートはどんなときに使いますか。</p> <p>S: ベッドで体の位置を変える時に使います。</p> <p>T: そうですね。スライディングシートを利用者さんの身体の下に敷いて、体の位置を変えたり、ベッドからストレッチャーに移動してもらった時に使います。</p> <p>T: 移動の介護で使用する福祉用具の言葉を勉強しました。しっかり覚えてください。</p>		
10分	まとめ	<p>学習した語彙が正しく定着しているかを確認テストでチェックする。テストでは、語彙の意味だけでなく発音も正しく認識しているかを確認する。</p> <p>確認テストはその場でチェックし、実習生にフィードバックする。</p>	確認テストを受ける	(参考) 確認テスト

I - 第2章 3回目 教案例

目標：移動の介護の声かけ例を覚え、利用者にとって聞き取りやすい声かけができるようになる

※表内の T は日本語教師の発話例、S は技能実習生の発話例を示す

時間	項目	指導者の活動	技能実習生の活動	留意点
10分	前回の確認	前回学習した語彙が正しく定着しているかを小テストで確認する。 テストでは、語彙の意味だけでなく発音も正しく認識しているかを確認する。	小テストを受ける	(参考資料) 語彙確認テスト
5分	導入	移動の介護をするときに、どのようなことに注意する必要があるかを S から引き出す。 会話例 T：利用者さんが車椅子を使う時、どんなことに気をつけなければなりませんか。 S：ゆっくり車椅子を押して、怪我がないようにする。 T：そうですね。では、今日は移動の介護の声かけを勉強しましょう。	指導者の問いに答えながら、移動の介護の現場をイメージする	
30分	声かけ指導	声かけの場面の確認 T が声かけを心情を込めて音読し、S に聞かせる。 音読後に、声かけ会話の内容が理解できているかを確認する。 質問例	T の音読を聞き、どのような場面での声かけかを理解する	

		<p>T: アルさんと野村さんは、どこへ行きましたか。 S: 食堂です。 T: 野村さんは、歩くことができますか。 S: いいえ、できません。 T: 野村さんは、どうやって食堂へ行きましたか。 S: 車椅子で行きました。 T: 車椅子は野村さんが自分で動かしましたか。 S: いいえ、アルさんが手伝いました。 T: 車椅子のブレーキは誰がかけてましたか。 S: 野村さんです。</p> <p>声かけ会話の音読 教師の音読後に、リピートするようにSに指示する。 心情を込めて声に出して読むように指示する</p> <p>声かけ会話練習 ①Sをアルさん役と野村さん役に分け、会話の練習を行う。 慣れるまでは、クラスで一斉に練習をし、慣れてきたら、ペアで練習する。</p> <p>②滑らかに言えるようになったら、実際に動作をつけながら、適切なタイミングで声かけができるように練習する。</p>	<p>適切な発音、声の大きさ、トーンで音読する</p> <p>声かけのやり取りを覚え、適切な発音、声の大きさ、トーンで滑らかに言えるように繰り返し練習し、会話を暗記する。</p> <p>動作もつけながら声かけができるようになるまで練習する。</p>	
--	--	---	--	--

15分	評価	<p>③役割を交代し、上記同様の練習を行う。</p> <p>各ペアに発表させ、適切に声かけができるようになったかを評価し、適宜フィードバックを行う。 (評価対象は、技能実習生のアルさん役の声かけとする。 そのため、各ペア役割を交代して2回発表する)</p>	<p>③役割を交代し、上記同様の練習を行う。</p> <p>声かけをペアで発表する</p>	(参考資料) 声かけ会話評価シート
-----	----	--	---	----------------------

I - 第2章 4回目 教案例

目標：状況に応じて、車椅子の移乗に必要な簡単な声かけができるようになる

表現語彙：肩に手を回す

※表内の T は日本語教師の発話例、S は技能実習生の発話例を示す

時間	項目	指導者の活動	技能実習生の活動	留意点
10分	前回の復習	<p>前回の復習として、前回学習した声かけをペアで練習するよう指示する。</p> <p>ペアごとの練習が終わったら、3ペア程度で一つのグループを作り、グループ内でペアごとに声かけを発表し、よかった点や気づいた点などをお互いに指摘し合うよう指示する。</p>	<p>前回学習した声かけをペアで練習する</p> <p>3ペア程度でグループとなり、グループ内でペアごとに声かけの発表をする。他のペアの発表を聞いている時は、よかった点やアドバイスを伝えられるように注意しながら聞く。</p>	
5分	導入	<p>今日の学習目標を技能実習生に伝える。</p> <p>会話例</p> <p>T：この前の授業では、車椅子で移動するときの声かけを勉強しました。今日は、ベッドから車椅子に移動してもらおう時や、車椅子からベッドに移動してもらおう時の声かけを勉強します。</p> <p>T：利用者さんがベッドから車椅子に移動するとき、どんなことに気をつければなりませんか。</p>	<p>指導者の問いに答えながら、車椅子への移乗に関する介護の現場をイメージする</p>	

		<p>S：車椅子に必ずブレーキをかけておきます。</p> <p>T：そうですね。車椅子にブレーキをかけておくこととはとても大切ですね。</p> <p>(板書) 車椅子にブレーキをかける</p> <p>T：他に、気をつけることはありますか。</p> <p>S：利用者さんをしっかり支えます。</p> <p>T：そうですね。</p> <p>(板書) 利用者さんを支える</p> <p>T：では、どうして車椅子にブレーキをかけますか。</p> <p>「_____ように車椅子にブレーキをかけます」で文を作ってください。</p> <p>(上記の板書の前に「_____ように」を追記する)</p> <p>S：車椅子が動かないように車椅子にブレーキをかけます。</p> <p>利用者さんが怪我をしないように車椅子にブレーキをかけます。 等</p> <p>T：いいですね。次は、「_____ように利用者さんをしっかり支えます」で文を作ってください。</p> <p>(上記の板書の前に「_____ように」を追記する)</p> <p>S：利用者さんが怪我をしないようにしっかり支えます。</p> <p>利用者さんが立ちやすいようにしっかり支えます。 等</p>		<p>ロールプレイ実施時に必要な語彙を簡単に復習しながら、ロールプレイの設定を導入する</p>
--	--	---	--	---

45分	ロールプレイ	<p>T: いいですね。それでは、ベッドから車椅子に移動してもらおう時の声かけを練習しましょう。</p> <p>①ロールカード1を配付し、ペアで会話する</p> <p>②ペアごとに会話を発表するよう指示する (少人数のクラスの場合は全ペアに発表させることが望ましいが、多人数の場合は、代表の数ペアに限定して発表させる)</p> <p>③発表した会話から、うまく表現できた部分と不足している表現や語彙を抽出し、不足している部分については指導を行う。</p> <p>指導表現例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肩に手を回す <p>④ロールカード2を配付し、ペアで会話する。</p> <p>⑤ペアごとに会話を発表するよう指示する (少人数のクラスの場合は全ペアに発表させることが望ましいが、多人数の場合は、代表の数ペアに限定して発表させる)</p>	<p>①ロールカード1を見て、ペアで会話する</p> <p>②指名されたら発表する。発表を聞いている時は、上手に表現できているところや、直したほうがいいのか注意しながら聞く。</p>	<p>(参考資料) ロールプレイ</p> <p>文法面の正確さだけでなく、声の大きさ、表情、間の取り方にも注意するよう指導する</p>
-----	--------	---	---	---

		<p>⑥ロールプレイ1より上手になっていることをフィードバックで示し、技能実習生に達成感を持たせる。</p> <p>⑦次回の授業時に今回のロールプレイのテストをすることを告げ、よく練習しておくように伝える。次回は、I-第2章で学んだことの総まとめテストを行うので、学習した語彙や表現などをよく復習しておくように伝える。</p>		

I - 第2章 5回目 教案例

目標：I-第2章で学んだことを振り返り、介護の現場で活かせるようになる

表内のTは日本語教師の発話例、Sは技能実習生の発話例を示す

時間	項目	指導者の活動	技能実習生の活動	留意点
5分	復習	前回の復習として、前回練習したロールプレイをペアで練習するよう指示する。	前回学習したロールプレイをペアで練習する	
25分	ロールプレイ 評価	ロールプレイのテストとして、各ペアに発表させ、適切に声かけができてきているかを評価する。 評価は「声かけ会話評価シート」に記入し、フィードバックする。 (評価対象は、実習生役のAとする。そのため、各ペア役割を交代してロールプレイ1、ロールプレイ2を発表する)	ロールプレイをペアで発表する	(参考資料) 声かけ会話評価シート
10分	テスト	I-第2章で学んだことの定着確認として、総まとめのテストを実施する	テストを受ける	(参考資料) まとめテスト
20分	テスト解説 まとめ	テストの解説をしながら、I-第2章で学んだことを振り返り、確実な定着を促す ※「評価シート」は、後日手交する	解説を聞き、I-第2章で学んだことを振り返る	(参考資料) 評価シート

年 月 日

(チェック回数: _____ 回目)

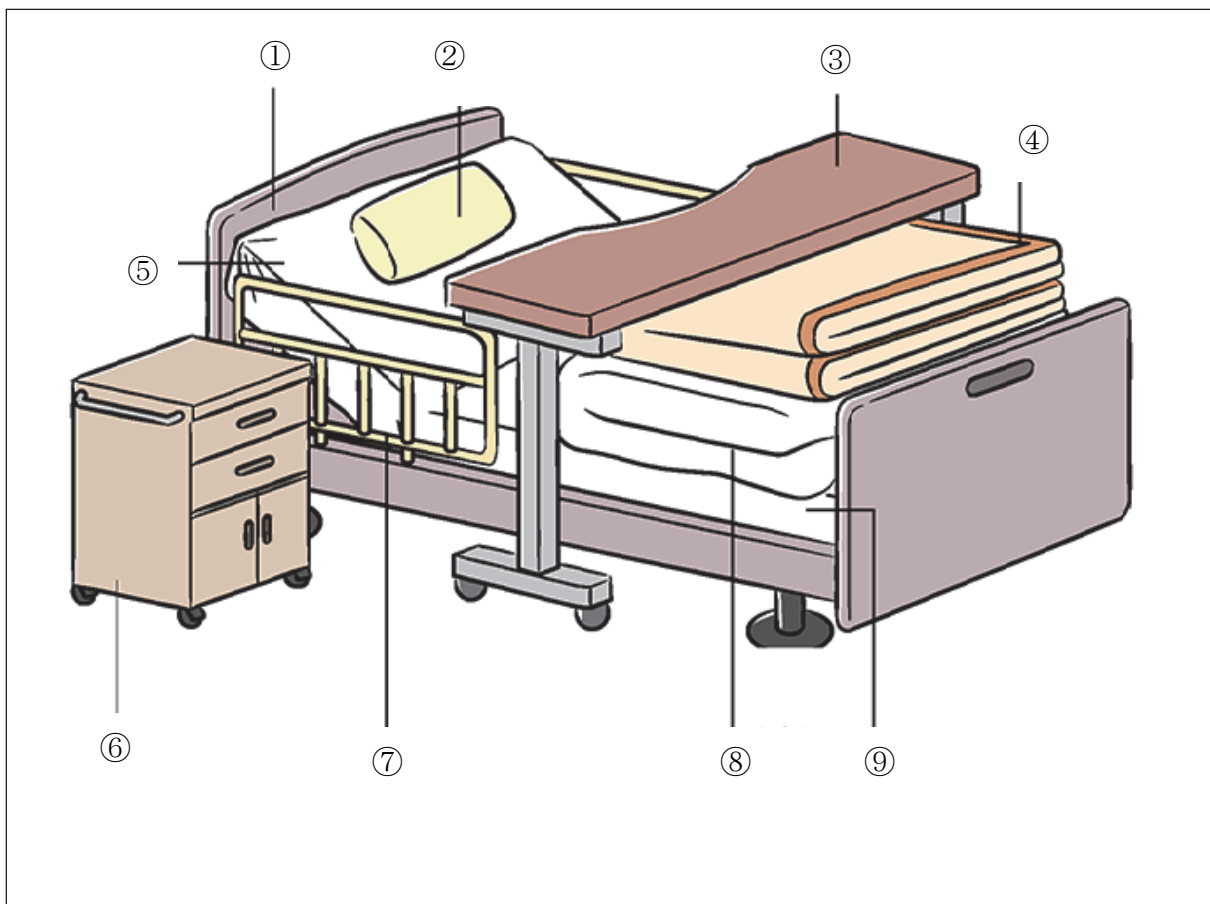
かいごぎのうじっしゅう 介護技能実習における にほんごうんようりよく 日本語運用力チェックシート		なまえ 名前			
		できない	少し すこ できる	できる	よく よ できる
1	かいご げんば つか きそてき ことば わ 介護の現場でよく使う基礎的な言葉が分かる				
2	かいご げんば つか せんもんてき ことば わ 介護の現場でよく使う専門的な言葉が分かる				
3	かいご ばめん こえ 介護の場面にあった声かけができる				
4	しじ せつめい き 指示や説明を聞いて、「わかりました」「わかりません」など、 りかい 理解できたか どうかを伝えることができる				
5	しじ せつめい き 指示や説明を聞いて、わからない点について もう一度 聞いたり、 かくにん 確認することができる				
6	し わからないことや 知らないことについて 質問することができる				
7	お 「終わりました」「まだです」など、さぎょう じょうきょう ほうこく 作業の状況を報告することができる				
8	りようしや じょうきょう ほうこく 利用者の状況を報告することができる				
9	いっしょ はな あ さぎょう かた ミーティングで一緒に話し合ったり、作業のやり方などについて いけん こうかん 意見交換したりすることができる				
10	につぽう ほうこくしょ か 日報や報告書などを書くことができる				
11	にほんご がくしゅう もくひょう き 日本語学習の目標を決めて、計画的に学習を進めることができる				

いま にほんご がくしゅう なに おも
今、日本語の学習で何をしなければならぬと思いますか。

しどうしや
(指導者のコメント)

ごいかくにん
語彙確認テスト (例)

名前 _____



1. 単語を聞いて、書いてください。その単語は、上の絵の何番ですか。番号を書いてください。

- | | |
|----------|------------|
| 1. _____ | 絵の番号 _____ |
| 2. _____ | 絵の番号 _____ |
| 3. _____ | 絵の番号 _____ |
| 4. _____ | 絵の番号 _____ |
| 5. _____ | 絵の番号 _____ |
| 6. _____ | 絵の番号 _____ |
| 7. _____ | 絵の番号 _____ |
| 8. _____ | 絵の番号 _____ |
| 9. _____ | 絵の番号 _____ |

<語彙確認テストの進め方>

1. テストを技能実習生に配付する。もしくは、学習するページのイラスト部分の文字を消し、プロジェクターなどで映し出し、クラス全体に見せてもよい。
2. 日本語教師、支援者がランダムに単語を読み上げ、技能実習生が書き取る。書き取った後に、イラストから該当する番号を選び、記入するように指示する。
3. 答え合わせを実施する。

進め方の教案例

T: 今から、テストをします。私がこの絵の中の単語を言いますから、皆さんは、この紙（テスト用紙を示す）に書いてください。漢字で書ける人は漢字で書いてください。難しい場合は、ひらがなでもいいです。その単語は、この絵の中のどれですか。番号で書いてください。

では、始めます。

1. 毛布、毛布 (技能実習生の様子を見て、2～3回単語を繰り返す。以下同様。)
2. マットレス、マットレス
3. シーツ、シーツ
4. 布団、布団
5. 枕、枕
6. サイドレール、サイドレール
7. ベッド、ベッド
8. 床頭台、床頭台
9. オーバーテーブル、オーバーテーブル

T: どうですか。できましたか。それでは、答えを確認します。S (技能実習生の名前を呼ぶ) さん、前に出て、ホワイトボード (黒板) に答えを書いてください。
(技能実習生を問題数分指名する)

T: (板書が終わったのを確認してから) では、1から確認しましょう。
(クラス全体で表記が正しくできているかを確認後、発音を確認する)
それでは、読んでください。(正しく発音できているか、アクセントも含めて確認する)
(以下、全問繰り返す)

確認テスト (例)

名前 _____

1. A から 言葉 を 選んで、() に 書いてください。

B から 動詞 を 選んで 正しい 形にして、 _____ に 書いてください。

例) 食事の 前に、(オーバーテーブル) を ふいて おきましょう。

1. ベッドの 角度を 変えるときは、() で _____ ください。
2. () の 引き出しの 中に、利用者さんの メガネが 入っています。
3. 朝起きたら、() を _____ ように してください。
4. マットレスや 敷布団に きれいな () を _____ しましょう。
5. オーバーテーブルを 動かすときは、() を _____ ください。
6. ベッドから 車いすに 移るときは、() に _____ しましょう。

A: ~~オーバーテーブル~~ ・ シーツ ・ リモコン ・ ~~介助バー~~ ・ ~~布団~~
 枕 ・ ~~ストッパー~~ ・ ~~床頭台~~

B: ~~ふく~~ ・ ~~はず~~ ・ ~~操作する~~ ・ ~~閉める~~ ・ ~~つかまる~~ ・ ~~たたむ~~ ・ ~~かける~~

<解答>

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. (リモコン) <u>操作して</u> | 2. (床頭台) |
| 3. (布団) <u>たたむ</u> | 4. (シーツ) <u>かけ</u> |
| 5. (ストッパー) <u>外して</u> | 6. (介助バー) <u>つかまり</u> |

確認テスト (例)

名前 _____

1. A から 言葉を 選んで、() に 書いてください。

B から 動詞を 選んで 正しい 形にして、 _____ に 書いてください。

例) 食事の 前に、(オーバーテーブル) を ふいて おきましょう。

1. ベッドの 角度を 変えるときは、() で _____ ください。
2. () の 引き出しの 中に、利用者さんの メガネが 入っています。
3. 朝起きたら、() を _____ ように してください。
4. マットレスや 敷布団に きれいな () を _____ しましょう。
5. オーバーテーブルを 動かすときは、() を _____ ください。
6. ベッドから 車いすに 移るときは、() に _____ しましょう。

A: ~~オーバーテーブル~~ ・ シーツ ・ リモコン ・ ~~介助バー~~ ・ ~~布団~~
 枕 ・ ~~ストッパー~~ ・ ~~床頭台~~

B: ~~ふく~~ ・ ~~はず~~ ・ ~~操作する~~ ・ ~~閉める~~ ・ ~~つかまる~~ ・ ~~たたむ~~ ・ ~~かける~~

<解答>

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. (リモコン) <u>操作して</u> | 2. (床頭台) |
| 3. (布団) <u>たたむ</u> | 4. (シーツ) <u>かけ</u> |
| 5. (ストッパー) <u>外して</u> | 6. (介助バー) <u>つかまり</u> |

ロールプレイ (例)

ロールプレイ 1

ロールカード A

役割 : あなたは、介護施設の 技能実習生です。

状況 : 利用者の 田中さん (ロールカード B) は、腰が 痛くて 歩くのが大変なので、車いすを 使っています。田中さんは、支えが あれば、一人で 立つことが できます。もうすぐ 食事の 時間ですから、田中さんと 食堂へ 行きます。

課題 : 田中さんに 声を かけながら、ベッドから 車いすに 移る 介助を してください。

ロールカード B

役割 : あなたは、介護施設利用者の 田中さんです。

状況 : 腰が 痛くて 歩くのが 大変なので、車いすを 使っています。支えが あれば、一人で 立つことが できます。

もうすぐ 食事の 時間ですから、食堂へ 行きたいです。

課題 : 技能実習生が ベッドから 車いすに 移る 介助を してください。技能実習生の 声かけに 対応してください。

<会話例>

A : 田中さん、もうすぐお食事の時間ですよ。食堂へ行きましょうか。

B : そうですね。

A : 車椅子に移りましょう。少しお手伝いしますね。

B : はい、お願いします。

A : では、ベッドに腰かけてくださいね。

わたしの肩に手を回していただけますか。

B : はい。

A : では、ゆっくり立ち上がりましょう。大丈夫ですか。

B : はい。

A : では、車椅子に腰かけましょう。大丈夫ですか。

B : うん、ありがとう。

ロールプレイ 2

ロールカード A

役割 : あなたは、介護施設の 技能実習生です。

状況 : 利用者の 田中さん (ロールカード B) は、腰が 痛くて 歩くのが 大変なので、車いすを 使っています。田中さんは、支えが あれば、一人で 立つことが できます。田中さんの 食事が 終わったので、部屋へ 帰ってきました。

課題 : 田中さんに 声を かけながら、車いすから ベッドに 移る 介助を してください。

ロールカード B

役割 : あなたは、介護施設利用者の 田中さんです。

状況 : 腰が 痛くて 歩くのが 大変なので、車いすを 使っています。支えが あれば、一人で 立つことが できます。食事が 終わったので、部屋へ 帰ってきました。

課題 : 技能実習生が 車いすから ベッドに 移る 介助を してくれます。技能実習生の 声かけに こたえてください。

<会話例>

A : それでは、ベッドに移りましょう。ブレーキをかけていただけますか。

B : はい。

A : 私の肩に手を回していただけますか。

B : はい。

A : ゆっくり立ち上がりましょう。大丈夫ですか。

B : はい。

A : では、ベッドに腰かけましょう。大丈夫ですか。

B : はい、大丈夫です。どうもありがとう。

ロールプレイの進め方

事前準備：ロールカードを作成する。ロールカード A、B には、その人の置かれた状況、会話をする目的などを学習者が理解できるように書く。

授業の進め方：

- ①学習者を二人一組でペアにし、ロールプレイ 1 を実施する。
学習者 A にはロールカード A を、学習者 B にはロールカード B を渡す。
学習者はロールカードを黙読し、ロールカードの指示に従って会話を進める。
- ②講師は学習者がロールプレイをしている最中（指示に従って会話をしている最中）は、基本的には介入せずに見守る。必要に応じて録音してもよい。
- ③ロールプレイ終了後、フィードバックを行う。よくできた箇所は褒め、改善したほうがいい箇所は、適切な語彙や表現を指導する。
- ④フィードバック後、同じような設定のロールプレイ 2 を実施（実施手順は①～③）し、ロールプレイ 1 のときよりも表現力が向上したことを学習者に実感させる。

まとめテスト (例)

名前 _____

1. A から 言葉^{ことば}を 選^{えら}んで、() に 書^かいてください。

B から 動詞^{どうし}を 選^{えら}んで 正^{ただ}しい形^{かたち}にして、_____に 書^かいてください。

例) 食事^{しょくじ}の 前^{まえ}に、(オーバーテーブル) を _____ 書いて おきましょう。

1. () を _____、床頭台^{しょうとうだい}を 動^{うご}かしてください。
2. 佐々木^{ささき}さんは、歩^{ある}くとき () を _____ います。
3. 車^{くるま}いすを 動^{うご}かすときは、() を しっかり _____ しましょう。
4. 車^{くるま}いすを 停^とめますね。() を _____ いただけますか。
5. 食事^{しょくじ}の ときは、() で ベッドの 角^{かく}度^どを _____ ください。
6. 利用者^{りようしや}さんを ベッドから 車^{くるま}いすに 移^{うつ}すとき、

お尻^{しり}の 下^{した}に () を _____ と 便^{べん}利^りです。

A: オーバーテーブル ・ 杖^{つえ} ・ リモコン ・ スライディングボード
グリップ ・ ストレッチャー ・ ストッパー ・ _____ ・ ブレーキ

B: ふく ・ 握^{にぎ}る ・ 外^{はず}す ・ つく ・ 調^{ちようせい}整^{せい}する ・ 取^とり換^かえる ・ かける ・ しく

2. 車^{くるま}いすを 押^おす ときは、どんなことに 気^きを つけなければ なりませんか。

2つ 書^かいてください。

1.

2.

<解答>

1.

1. (ストッパー) 外して

2. (杖) ついて

3. (グリップ) 握り

4. (ブレーキ) かけて

5. (リモコン) 調整して

6. (スライディングボード) しく

2.

- ・利用者さんに声をかけて、静かに車椅子を押します。
- ・グリップをしっかり握ります。
- ・利用者さんがケガをしないように、気をつけます。
- ・車椅子のブレーキを確認します。

等

ひょうか 評価シート

なまえ 名前 _____

ひょうかび 評価日 _____

ひょうかしや 評価者 _____

がくしゅうしょう だい しょう 学習章：第 章	
①テキストの 語彙を 覚える ことが できた	とてもよい よい まあまあ よくない
②テキストの 声かけを 覚える ことが できた	とてもよい よい まあまあ よくない
③テキストの 声かけを、聞き取りやすい 発音で 言う ことが できた	とてもよい よい まあまあ よくない
④行動しながら、テキストの 声かけを 行う ことが できた。	とてもよい よい まあまあ よくない
⑤学習した 語彙を 使って、自分で 工夫しながら、声かけが できた	とてもよい よい まあまあ よくない
<コメント>	